星空で地域をつなぐ「天の川ネット」が誕生！

宮地竹史（水沢 VLBI 観測所）

星空を通じて連携しようと開催された「VERA 天の川サミット」。

VERA10周年記念式典に引き続き、「天の川サミット」が開催されました。

VERA観測局のある4つの自治体の首長さんが、一堂に会することはこれまでになく、10周年を機会に、星空を通じて連携し交流をしょうと企画されました。そして、話し合いの結果、国内では初めての星空で地域をつなぐ「天の川ネット」が作られました。

石垣島での「南の島の星まつり」は、市民の皆さんの協力で「日本最大の星のイベント（環境省）」と言われるまでになりましたが、奥州市では「いわて銀河フェスタ」、薩摩川内市では「八重山高原星物語」、小笠原村では「スターアイランド」と銘打ったイベントが、VERA観測局の施設公開とあわせて開催され、今では地域の重要な行事となっています。

天の川ネットの宣言文を読む水沢高校の生徒さん。

「天の川ネット」による交流を誓って握手する（左から）小沢昌記奥州市長、向原翼薩摩川内市副市長、林正彦国立天文台長、森下一男小笠原村長、中山義隆石垣市長。

このように地元との連携が深まる中、2009年の世界天文年を前にして、各地域の方々から「4つの観測局のある地元とも連携・交流したい」という声が聞こえてきました。そこで、2009年の石垣島の「星まつり」で、水沢局のある奥州市商工会が、特産品の展示販売を石垣市商工会の協力を得て開催したところ、大変好評でした。そして、その年の12月、4つの自治体の観光・商工行政の担当者の方々に国立天文台（三鷹）に集まっていただき、話し合った結果生まれたのが、「天の川サミット」「天の川ネット」の構想でした。

サミット会場には160名近くが集い、首長さんによる地域紹介やネットワークづくりの意見に耳を傾けました。「天の川ネット」の宣言文を、地元の水沢高校の生徒さんが読み上げた後、4首長と国立天文台長が固い握手をし、今後の連携を誓い合いました。参加者からは、「大変素晴らしい企画だった」という感想が数多く寄せられ、翌日の新聞紙面では、式典よりも大きくサミットと「天の川ネット」が取り上げられました。

市民レベルの交流は、少しずつ始まっており、今年5月には各地域の高校生達で「金環日食を使った月までの距離測定」が企画され、天候に恵まれた岩手の水沢高校と鹿児島の川薩清修館高校の共同研究が成功し、解析結果が6日に開催された記念講演会で発表されました。

また、今回の式典にあわせて、奥州市のショッピングセンターでは、石垣市、小笠原村、薩摩川内市の特産品を並べ、「天の川ネット交流物産展」が、一週間開催されました。奥州市商工会の方は「準備が良ければ、まだ3倍は売れただろう」と、星空つながりの物産展の成功を喜んでいました。

今後もさまざまな交流を通じて、連携を深め、さらにVERA観測局、国立天文台、そして天文学に親しみをもって頂ければと思います。

天の川ネット交流物産展の入り口看板。

産地直送の物産展にお客さんが注目。